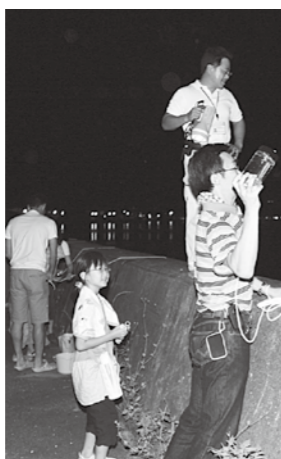




→「どこにいるかな？」ウミホタルは半透明で小さいので、バケツの中で見つけるのは一苦労。



←仕掛けを海に投げ入れて準備完了。後は引き上げてのお楽しみです。



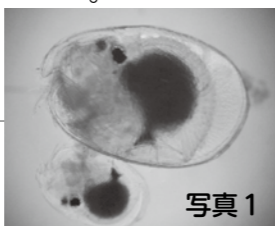
↑活動前に、西原館長からウミホタルの生態や観察方法などの説明を受けました。



←仕掛けを投げ入れた後、海面を見る参加者。所々で青い光がゆらめき、「光ってる！」という声が上がりました。

▼市内で観察会を開催
8月7日(土)、江田島町鷺部の江田島湾内でウミホタルの観察会が行われました。当日は、親子連れなど約30人が参加。周囲がすっかり暗くなっ

▼ウミホタルの生態
ウミホタル(写真1)は、エビ・カニの仲間。見た目はミジンコに似ていて、大きさは約3mmです。夜になると遊泳し、魚や貝などの死体を食べます。刺激を受けるとルシフェリンという発光物質を体外に出すことで青白く光ります。(写真2)昆虫のホタルのように、自分の体内で光るわけではなくありません。なぜ光るのかははっきりしていませんが、身に危険を感じたときや求愛するときに光るのではな



ました。光を放つ身近な海の生物「ウミホタル」。市内では、7月から9月が観察に向いているとのこと。皆さんも、ウミホタルを観察してみませんか？

た午後8時ごろから、採取を始めました。仕掛けを堤防から投げ入れ待つこと15分。引き揚げた仕掛けの中ではウミホタルが泳いでいるようすが、暗くてよく見えませんが、しかし、別の網に移し替えるときに青白い光が輝き「おお〜」「きれいじゃねえ」という声があちこちで上がっていました。観察会に参加した田中春菜ちゃん(沖美町三吉)は、「手についた青い光がとてもしきれいで、楽しかったです」とこやかに話していました。

1 ウミホタル観察会 青い光に魅せられて



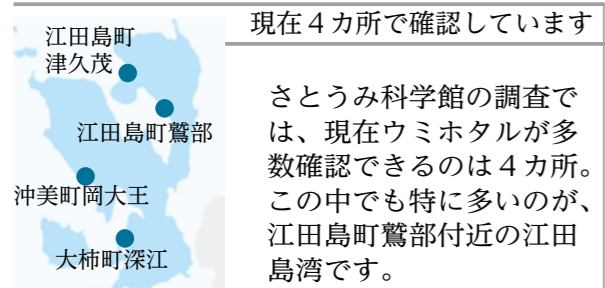
8月7日(土)に行われたウミホタル観察会。容器に光を当てると、中で泳ぎまわっているたくさんのウミホタルがくっきりと見え、参加者から歓声が上がりました。

夏休み さとうみ科学館活動記

さとうみ科学館で体験学習や観察会など、たくさんの活動が行われた夏休み。今回は、その一部を紹介します。



市内のウミホタル観察ポイント



現在4カ所で確認しています

さとうみ科学館の調査では、現在ウミホタルが多数確認できるのは4カ所。この中でも特に多いのが、江田島町鷺部付近の江田島湾です。

ウミホタルはこれで捕まえる

ロープとビンの簡単な仕掛け



おすすめの仕掛けは、インスタントコーヒーなどのビンのフタに穴をあけたもの。ロープを付けて、えさにはカニかまを選択。満潮時がベストです。

「環境館」から「さとうみ科学館」へ

大柿自然環境体験学習交流館の愛称が決まりました

さとうみ科学館は、身近な自然に直接ふれながら、海辺やふるさとの自然をテーマにした観察会などを企画・運営しています。
☎(57)2613



自然に親しみ、科学を楽しむ施設としてイメージしやすいよう、「環境館」に代わる愛称を募集しました。選考の結果、応募総数116作品の中から木村雄平くん(鹿川小6年)が考案した「さとうみ科学館」に決まりました。これからも皆さんに愛され、親しまれる施設となるよう、より一層頑張っていきます!